

2024年10月21日

日本製紙連合会

「環境行動計画」／廃棄物対策  
フォローアップ調査結果（2023年度実績）

日本製紙連合会の「環境行動計画」／廃棄物対策の進捗状況を確認するため、本年7月に2024年度フォローアップ調査（2023年度実績）を実施した。

## 1. 目標

- ①2025年度までに産業廃棄物の最終処分量を有姿量で6万トンまで低減する。
- ②業界独自目標として、有効利用率の現状維持に努める。

## 2. 調査項目

調査対象：36社105工場・事業所（非会員の協力会社6社15工場・事業所を含む）

回答：36社105工場・事業所（回答があった105工場・事業所の2023年度における紙・板紙の生産シェアは、調査対象会社合計の100.0%、全製紙会社合計の89.1%を占める）

調査年度：2023年度

調査項目：工場・事業所別の産業廃棄物の最終処分量、有効利用率、発生量、減容化量、再資源化量、有効利用先

## 3. 調査結果

### ①産業廃棄物発生量

発生量は403.0万トンで、対前年度15.5万トンの減少となった。減少要因は、2023年度の紙・板紙生産量が対前年度6.6%減と減少したことに加え、ボイラーの燃料転換（石炭→重油等）に伴う石炭使用量の減少等が挙げられる。

### ① 減容化量

減容化量は211.5万トン。減容化量の内訳は、燃料利用を基本とするPSの可燃部分が56.5万トン及び廃プラスチック・木くず等が15.6万トンであり、残りの139.4万トンは蒸発水分である。

### ② 再資源化量

再資源化量は184.3万トンで、対前年度6.3万トン減少した。

### ③ 最終処分量

最終処分量は7.2万トン（2022年度比0.5万トン減）であった。目標の6万トンを1.2万トン上回り、目標には達しなかった。目標未達の要因は、一部工場でのボイラートラブルによる影響や燃え殻の再資源化の未実施に伴う最終処分化等が挙げられる。

### ④ 有効利用率

有効利用率は98.2%で、目標の98.4%を0.2ポイント下回り、目標には達しなかった。目標未達の要因は、ボイラートラブルによる排水スラッジ等の焼却処理の減少が挙げられる。

廃棄物対策の進捗状況を以下に示す。

表1 2023年度の進捗状況（有姿ベース）

	1990年度 実績	2000年度 実績	2005年度 実績	2010年度 実績	2015年度 実績	2020年度 実績	2022年度 実績	2023年度 実績	2025年度 目標
発生量 (万 t)	-	620.3	570.1	530.2	510.1	421.9	418.5	403.0	-
減容化量 (万 t)	-	360.6	312.1	281.3	243.3	202.0	220.1	211.5	-
再資源化量 (万 t)	-	205.6	220.7	222.2	251.6	213.0	190.7	184.3	-
最終処分量 (万 t)	220.5	54.1	37.2	26.8	15.2	6.9	7.7	7.2	6
減少率(%) (2000年度比)		-	▲ 31.2	▲ 50.5	▲ 71.9	▲ 87.2	▲ 85.8	▲ 86.8	▲ 88.9
再資源化率(%)	-	33.1	38.7	41.9	49.3	50.5	45.6	45.7	-
有効利用率(%)	-	91.3	93.5	95.0	97.0	98.4	98.2	98.2	98.4

PSは有姿において水分の変動が大きいいため、絶乾ベースの結果を示す。

表2 2023年度の進捗状況（絶乾ベース）

	1990年度 実績	2000年度 実績	2005年度 実績	2010年度 実績	2015年度 実績	2020年度 実績	2022年度 実績	2023年度 実績
発生量 (万BD t)	-	276.6	294.1	291.7	294.3	245.6	235.4	225.7
減容化量 (万BD t)	-	112.4	101.7	92.2	79.8	66.1	71.8	68.7
再資源化量 (万BD t)	-	133.0	169.1	181.9	204.0	174.9	158.8	152.4
最終処分量 (万BD t)	119.1	31.2	23.4	17.6	10.4	4.6	4.8	4.6
減少率(%) (2000年度比)		-	▲ 25.1	▲ 43.7	▲ 66.6	▲ 85.2	▲ 84.7	▲ 85.3
再資源化率(%)	-	48.1	57.5	62.4	69.3	71.2	67.5	67.5
有効利用率(%)	-	88.7	92.1	94.0	96.5	98.1	98.0	98.0

注) 発生量＝減容化量＋再資源化量＋最終処分量

再資源化率＝再資源化量÷発生量×100

有効利用率＝（発生量－最終処分量）÷発生量×100

図1 産業廃棄物発生量と再資源化量の内訳

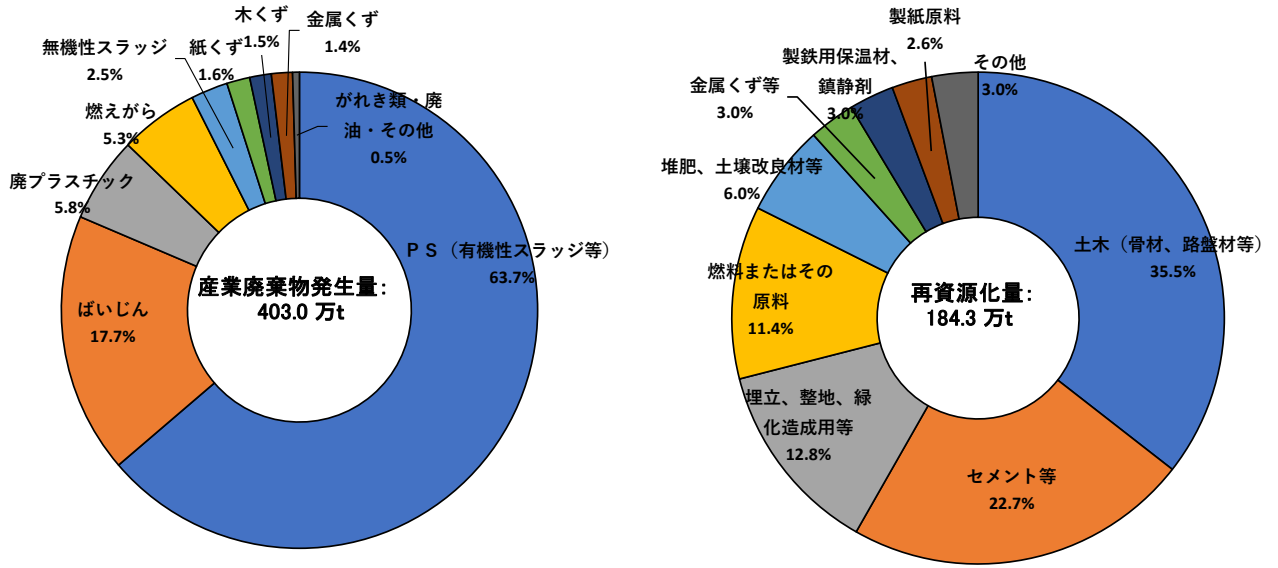


図2 最終処分量の推移

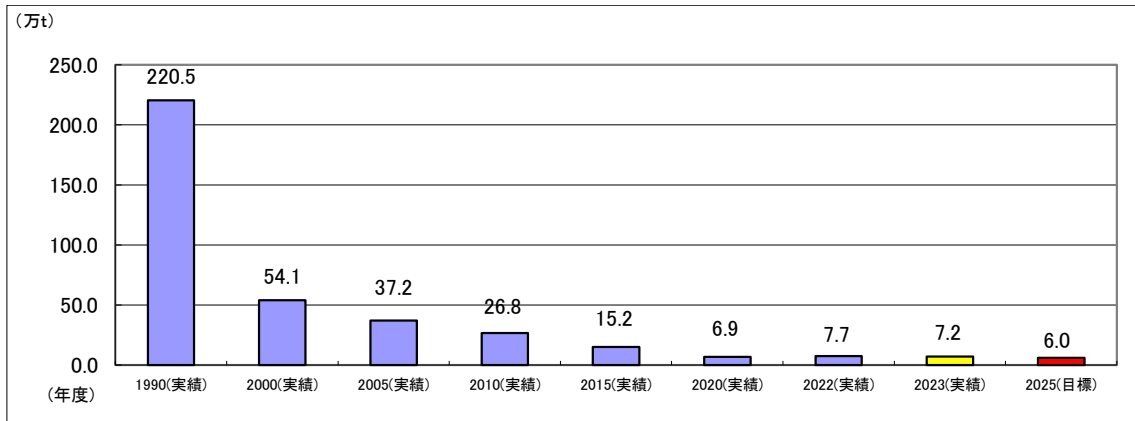
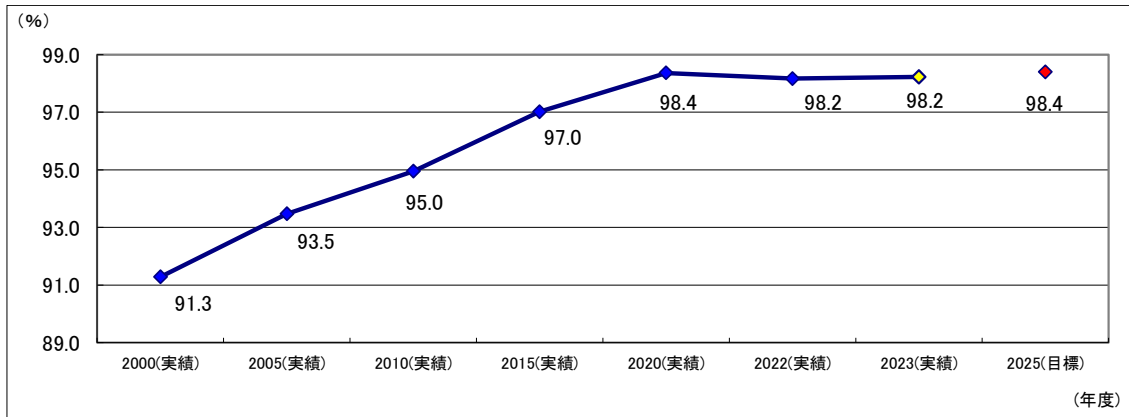


図3 有効利用率の推移



注) 用語の説明

最終処分量…廃棄物を廃棄物最終処分場に埋め立て処分した量。

有効利用率…発生した廃棄物を中間処理で減容化する際、水分やエネルギーの回収を伴うことから、最終処分量以外は全て有効利用しているものとし、その割合を計算したもの。

$$\text{有効利用率} = (\text{発生量} - \text{最終処分量}) \div \text{発生量} \times 100$$

発生量…製品の製造等の事業活動に伴い発生した廃棄物（不要物）の量。

$$\text{発生量} = \text{減容化量} + \text{再資源化量} + \text{最終処分量}$$

減容化量…発生した廃棄物を脱水、焼却などして減らした量。

再資源化量…事業活動に伴い発生した廃棄物を減容化した後、原料としてリサイクルした量及び製品の一部としてリユースした量の合計量。

有姿ベース…水分込みの重量ベース。

絶乾ベース…含水量ゼロ（固形分 100%）に換算した重量ベース。

BDt …Bone Dry t（絶乾トン）の略で、含水量ゼロに換算したトン数。

以上